６月チャプレンだより

「柔和な調理人」

教会に通い始めた頃、東京の荻窪にある「東京衛生病院」の厨房で働くことになりました。包丁を持ったこともない僕が、調理をするというのですから、これは大変なことでした。

僕の仕事は、患者さんのご飯を作ることでした。これは、簡単なようで、実は、大変に難しい仕事でした。患者さんによって、ご飯は、白米の人もいれば、玄米の人、また五分づき、七分づきとか、米の種類も違いますし、ご飯の硬さも違います。普通のかたさの人、お粥の人、そのお粥もお米のまったく入っていないおもゆの人もいます。このお粥だけでも何種類もあるのですから。もう頭がこんがらかってしまいます。だいこんやキュウリのぬか漬けもあります。学生の頃、一夜漬けをしたことはありますが、本物のおつけものを漬けたことなどありませんから、これも大変な仕事でした。

ある時、仕事がうまくいかなくて落ち込んでいると、スーッと僕のそばにきて、僕の洗い物を手伝いながら、ニコニコしている人がいました。そういえば、このＳさんは、僕が落ち込んでいるときには、必ず、僕のそばにいて、ニコニコしながら僕の仕事の手伝いをしてくれていたなぁ。そして最後は、僕の肩をポンとたたいていかれたなぁ。

あれから 40 年以上がたちましたが、あのＳさんの 笑顔は、今でも忘れません。辛いことやいやなことがあると、あの時の笑顔を思い出して、元気を頂きます。このＳさんは、聾唖者（ろうあしゃ）で、人の声を聞くことも、お話もできませんでした。でも、僕の心の叫びを一番聞いていたのがＳさんだったように思います。こんな柔和な人になれたらいいなぁ。そう思っています。

聖書のことば

柔和な人たちは、さいわいである、彼らは地を受けつぐであろう。

マタイによる福音書５章５節

石川三育保育園チャプレン　北睦夫